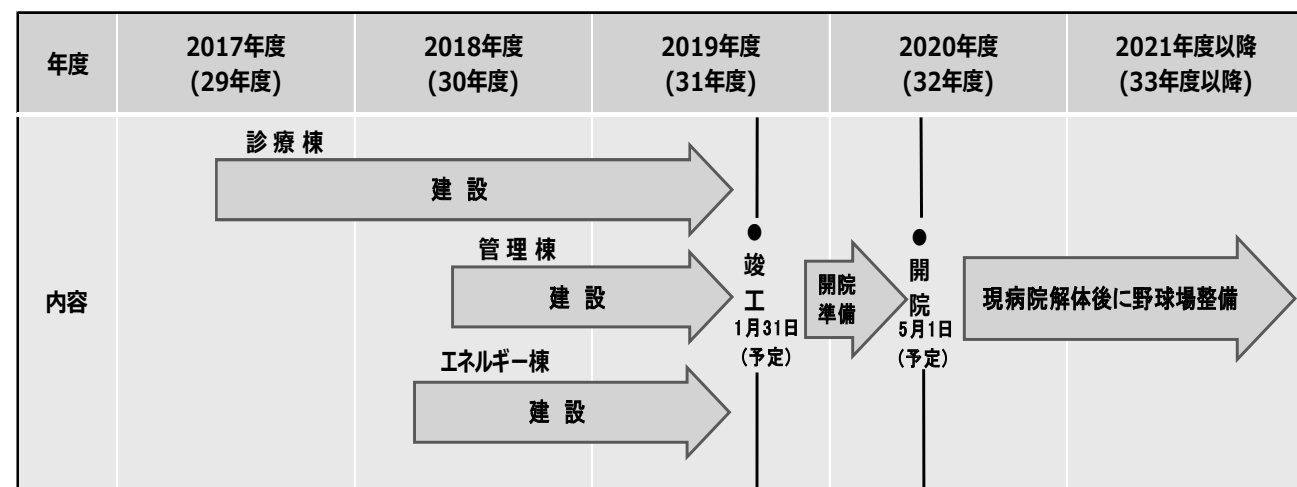


## 市民病院再整備事業の進捗状況について

### 1 開院スケジュール（案）



※新病院の所在地は神奈川区とする予定です。

### 2 工事の進捗状況

診療棟工事は順調に進捗しており、現在、地下2階で免震装置の設置などを行っています。今年度末には鉄骨の組立が概ね完了する予定です。

管理棟工事は10月に契約手続きが終了し、11月から着工しました。今年度末には躯体工事に着手する予定です。

診療棟・管理棟とも32年1月末の竣工を予定しています。



■ 建設工事の状況（平成30年11月時点）

【参考：市民病院再整備工事(管理棟) 施工業者】

【建築工事】松尾・奈良建設JV 【電気設備工事】三沢・新興建設JV  
【空調設備工事】川本・康栄社建設JV 【衛生設備工事】エルゴテック株式会社

### 3 総事業費の変更について

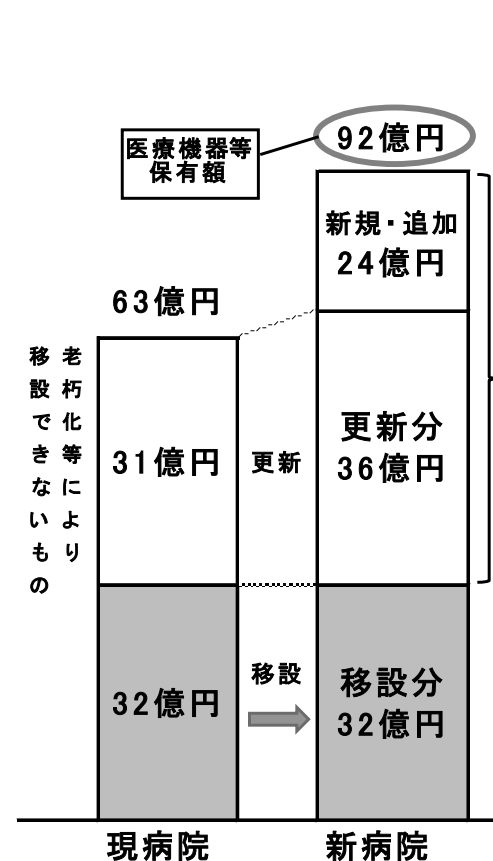
建築資材・労務単価の上昇による建設費の増や医療機器等整備費の増などにより、想定事業費は約482億円(実施設計時点 約450億円)を見込んでいます。

なお、増額する32億円は、すべて企業債でまかなうため、31年度一般会計予算への影響はありません。

項目	想定事業費		差	増額理由
	実施設計時点	現時点		
建設費	273	279	6	工事請負契約後の建築資材・労務単価上昇への対応
用地取得費	74	74		
初度調弁費	58	81	23	
医療機器等整備費	37	60	23	高度急性期病院として必要な医療機器等を整備
医療情報システム	21	21		
除却費	21	21		
野球場整備費	4	4		
その他	20	23	3	新病院運用検討委託費及び再整備に係る人員の増
事業費計	450	482	32	

### 4 医療機器等の整備について

高度急性期病院としての役割を果たすために、必要な医療機器の重点整備を実施します。



○主な新規・追加購入機器(予定※)

医療機器	説明
高精度リニアック(放射線治療装置)	がん放射線治療の充実・強化
手術台・シーリングペンダント・无影灯 等	手術室の増設に伴う機材の充実
血管撮影装置	不整脈治療・脳血管内治療件数増加への対応
ホルミウムYAGレーザー装置	尿路結石や前立腺肥大症などへの低侵襲治療
手術映像管理システム	手術の安全性を向上
周産期管理システム	母子診察情報の一元化による診療効率化
NICU部門システム	NICUの業務効率化、医療の質向上、情報共有
部門システム(ICU・放射線治療)	各部門の業務効率化・経営分析

※購入・移設する医療機器については、現在精査中です。

○主な更新機器(予定※)

医療機器	説明
3T(テスラ)MRI	がん診断・脳血管疾患の診断精度向上
320列マルチスライスCT	
無菌室ユニット	老朽化による更新
PET-CT	
注射薬自動払出装置	

※購入・移設する医療機器については、現在精査中です。

(参考)新病院と現病院の比較

項目	現病院	新病院	効果
手術室	9室	15室	がんに対する手術や日帰り手術への対応を強化
外来化学療法室	15床	30床	
緩和ケア病棟	20床	25床	がん医療を充実・強化
がんサロン	-	設置	
重症系集中治療室	46床	63床	高齢化に伴い増加する心臓・循環器疾患増加へ対応
血管造影室	2室	3室	
分娩室	1室	6室	分娩環境を向上

### 5 開院後の収支見込み

医療機器等の初度調弁費に対する減価償却が集中するため、開院後6年間は赤字の見込みですが、7年目以降は、黒字化する見通しです。

経常収支の推移

	開院						
	2020年度 (32年度)	2021年度 (33年度)	2022年度 (34年度)	2023年度 (35年度)	2024年度 (36年度)	2025年度 (37年度)	2026年度 (38年度)
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
変更前 (450億円)	▲ 15.1	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.8	0.3	0.3
変更後 (482億円)	▲ 15.8	▲ 2.1	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 2.1	▲ 1.8	2.2

※現時点における推計値。精査した数字は、現在策定中の次期中期経営プランに掲載します。

## 【参考】医療機器等の整備について

### 1 当初計画の考え方



- 更新費用は、現病院の医療機器を可能な限り移設した上で、移設不可能なものについて、現病院の保有額と同額で更新費用を計上しました。
- 新規拡充分については、将来の人員確保や経営状況等を踏まえ、開院後に段階的に整備することとし、開院初年度に必要な最低限度の額を概算で計上しました。

### 2 変更点について

#### (1) 更新分について (31億円→36億円) **+5億円**

基本計画以降、増加しているがんや循環器疾患患者に正確かつ迅速な診断を行うため、現病院の機器の単純更新ではなく、より高機能、高性能の機器を導入します。

##### <主な更新機器>

<p>・3T(テスラ※1)MRI</p> 	<p>MRI (磁気共鳴画像診断装置) は、強い磁力と電波を用いて体の断層面を撮影する装置です。現病院では1.5テスラ2台を運用していますが、1台を移設し、1台を3テスラに更新します。</p> <p>3テスラMRIは、1.5テスラと比較して、画像情報が多いため解像度が非常に高く、撮像時間の短縮や静音化といったメリットがあります。脳動脈瘤や関節痛の診断や、乳がん、前立腺がんの診断にも高精細な診断画像を得ることができ、新病院でのがん診断や脳血管疾患の診断精度の一層の向上が期待できます。</p>
<p>・320列マルチスライスCT</p> 	<p>CT (コンピュータ断層撮影装置) は、X線を使って身体の断面を撮影し、コンピュータでわずかなX線の吸収差を画像化する装置です。造影剤を静脈から注射することで臓器内部の病変や血管の状態を調べることができます。近年のCT装置の進歩は目覚ましく、最新の320列マルチスライスCTでは従来にない高画質かつ低被ばく検査を実現しています。</p> <p>現病院では、最高64列の3台(救急CT含む)のCT装置で、年間約33,000件の撮影を行っていますが、このうち平成15年に導入した機器(16列)を最新機種に更新します。</p>


#### (2) 新規・拡充分について (6億円→24億円) **+18億円**

がんや循環器疾患等に対する医療を充実し、高度急性期病院としての役割をより明確にするために最先端の医療に対応できる機器を導入します。

##### <主な新規・追加機器>

#### ① がん診療の充実

地域がん診療連携拠点病院として、今後増加するがん患者の治療に対応するために必要な機器を整備します。

<p>・高精度リニアック(放射線治療装置)</p> 	<p>当院には放射線治療を必要とする肺がん患者が多く、また肺がんは脳に転移しやすい疾患であるため、高精度な脳定位照射が必要となりますが、現病院の装置は脳定位照射には対応しておらず他院へ紹介せざるを得ない状況です。</p> <p>放射線治療医の複数体制も確保できたため、新病院では高精度な脳定位照射やIMRT(強度変調放射線治療)、VMAT(連続回転強度変調治療)といった最新の放射線治療に対応できる装置を導入します。</p>
---	--

### ・手術室増に伴う医療機材の充実



基本計画当時、年間約5,300件だった手術件数は、現在9室の手術室を最大限活用し、約6,000件の手術を実施しています。現病院の手術室不足を解消し、今後増加する手術需要に対応するため、新病院では15室(開院当初は13室)の手術室を整備する予定です。

さらに安全で効率的な手術が行えるよう、手術台やシーリングペンダント(※2)、无影灯といった手術室の標準装備の他、様々な術式に対応する医療機器を整備します。

#### ② 循環器領域の充実

29年度から強化している循環器系疾患に対する診療機能を更に充実させるために必要な医療機器を追加整備します。

##### ・血管撮影装置等



血管撮影装置とは、カテーテルという細い管を動脈や静脈に挿入し、造影剤を注入して腫瘍や血管の病気(狭窄や閉塞)の診断を行う装置です。近年、この技術により腫瘍の栄養血管を塞栓して腫瘍を小さくしたり、狭い血管を拡張させるIVR治療が注目されています。

当院においても29年度から不整脈に対するカテーテルアブレーション治療(※3)や、脳卒中や脳動脈瘤に対する血管内治療の専門医を招聘し、積極的な取組を始めました。特に脳血管内治療分野では、脳動脈瘤の最新治療であるフローダイバーター留置術(※4)を実施できる医師が着任しており、最新の血管撮影装置を導入し、その技術を発揮することが求められています。

#### ③ 医療安全管理の徹底

医療の安全性を高め、効率的な業務を行うために必要なシステムを導入します。

##### ・手術映像管理システム

手術映像管理システムは、手術室内の医療機器で撮影した映像をモニターし、一定期間記録、保管管理できるシステムです。

記録される映像は、手術中の術野映像のほか手術室内の全景映像も記録されるため、医療スタッフへの医療安全教育の教材として活用することができます。

##### ・重症系集中治療部門管理システム



新病院では、ICU、CCU、NICUといった重症系集中治療室が46床から63床へ増床しますが、数多くの生命維持装置を監視し、動作を管理するために必要な部門システムを導入し、医療の質と安全を確保します。

#### 【用語説明】

- ※1 テスラ:磁場の強さを表す指標。MRI検査では、磁場が強いほど解像度が向上するとともに、撮像時間が短縮される。
- ※2 シーリングペンダント:手術に必要な電源、医療ガス、各種情報端子などを、手術室の天井からぶら下げ、任意の位置から供給する天井懸垂式アームシステム
- ※3 カテーテルアブレーション治療:専用のカテーテルを心臓血管内に誘導し、不整脈を起こす原因となっている箇所に対し、体外からカテーテルを通じて高周波電流を流すことで焼灼・破壊する治療法。開胸手術が不要であるため、身体的負担は比較的小さい。
- ※4 フローダイバーター留置術:専用のカテーテルを脳動脈瘤に誘導し、「フローダイバーター」という器具を留置することで脳動脈瘤を小さくする治療法。開頭手術を行わないため、患者の身体的負担が小さい。高い技術を要するため、治療する医師は限定されている。